

は、それぞれの規模の特徴的な点である。

これらは、主として㊦奉仕を主体に、若干の㊧交換と㊨学級担任外専科的を加味した傾向のつよいものである。より教科担任制の傾向をもっている類型（一部教科担任制）としては、㊩

学級担任専科的と㊪学級担任外専科的を主体にして、若干の㊧交換か㊫事仕を加味した⑤、⑩、⑬、⑭などをあげることができよう。

しかし、これらの類型が占める比率は、大規模校の⑬12.8%をのぞいて、極めて低い。

第19表 類型の比率（学校規模別）

%

担当	類型				学校規模					
	No.	学担外専科 ㊨	学担専科 ㊩	交換 ㊧	奉仕 ㊦	～6	7～17	18～	全体	
(A) 学級担任の担当外教	①	●				4.7	7.5	5.1	5.7	
	②				●	1.2	·	·	0.6	
	③	●	—	●	●	0.8	3.1	1.3	1.6	
	(計)					(6.7)	(10.7)	(6.4)	(7.9)	
(B) 学級担任教師のみの担当	④				●	14.2	1.3	·	7.7	
	⑤		●	—	●	0.8	0.6	·	0.6	
	⑥			●		0.8	·	·	0.5	
	⑦		●	—	●	0.3	·	2.6	0.6	
	⑧			●	—	●	8.7	·	·	4.5
	⑨		●	—	●	●	0.8	0.6	·	0.6
(計)						(25.6)	(2.5)	(2.6)	(14.5)	
(C) 両者による担当	⑩	●	—	●		1.2	0.6	·	0.8	
	⑪				●	17.2	2.5	·	9.8	
	⑫	●	—	●	●	13.4	18.3	5.1	13.6	
	⑬	●	—	●	—	●	2.8	6.3	12.8	5.5
	⑭	●	—	●	—	●	2.0	0.6	7.7	2.4
	⑮		●	—	●		3.5	0.6	·	2.0
	⑯			●	—	●	5.1	1.3	·	3.1
	⑰	●	—	●			2.0	13.2	6.4	6.3
	⑱		●	—	●	●	2.8	0.6	1.3	1.8
	⑲	●	—	●	—	●	12.2	24.6	21.8	17.8
	⑳	●	—	●	—	●	5.5	18.3	35.9	14.5
(計)						(67.7)	(86.8)	(91.0)	(77.6)	

㊨ (A)の㊦は、学級担任外の奉仕

㊦ (B)の㊦は、学級担任の奉仕

㊦ (C)の㊦は、両者

(2) 類型例（番号は第19表による）

類型例示

注. 第19表の中で、近似の類型は合わせて示した。

(例.(B)⑧と(C)⑯=⑰(⑱))

① ㊨

出向先		1	4			5		6		
原学級	1	1	1	2	3	1	2	1	2	3
	1	1								
学担外	6	2								
		3								
	A					家	音	音	音	家
	B		音	体	図	音		図	体	
	C					習	習	習	習	習

(4) (2)

⑩ ㊦

出向先		1	4		5	6
原学級	1	1	1	1	1	
	2	1				家
学担外	5	1				音
	6	1				体
	A					習 理

⑫ ㊨—㊦

(3)

出向先		1	4		5	6
原学級	1	1	1	1	1	
	2	1				家
学担外	3	1				家
	A					体 音 音